

新中学校建設に向けたワークショップの結果概要

第1回 みんなで考える『理想の学校像』(12/5 開催)

<参加者 保護者19名(森田地区14名、河合地区5名)>
・2回目で具体的な整備イメージを議論するための「インプット」を目的として、文部科学省が示した8つの新しい学びの空間イメージを見て、理想の学校像について意見交換を行った。

空間イメージ	賛成できること	心配なこと	具体的なアイデア
横断的な学びや多目的な学びにも対応できる空間 	・色々な学習に対応できる教室がよい	・グループ学習などになりじめない子への対応 ・このスタイルが中学校には合わない	・レイアウトを柔軟に変えられるとよい ・個人が集中して学習できる場も必要
学校全体を学びの場とした発表にも活用できる空間 	・学校施設全体を学びの場としての活用に賛成	・他の学年との空間の共有ができるか ・発表が苦手な生徒へのフォロー	・大学の教室風にマイクとイヤホンがあって通訳できる環境
ITと図書館の連携など情報技術も活用できる空間 	・調べる効率が上がる ・デジタル化により強みや弱点などが分かりやすくなる	・ICT機器の活用が、出来る子と出来ない子の差がつく	・本や新聞を、廊下などでも見られるように ・他の学校、教育施設と連携のとれた環境
教員が情報交換や教材の製作などを円滑に行える空間 	・学年、部活動などで様々な場で先生同士のコミュニケーションができることに期待	・生徒の個人情報やプライバシー流出でいじめの問題につながる	・先生にとって働きやすい環境 ・先生に気軽に質問できる職員室
居場所となるベンチの配置や木材を活用した温かみのある空間 	・福井県産の木材を使用したぬくもりを感じられる校舎 ・可動式の部屋。	・廊下のベンチ等は災害時に邪魔になりそう ・木造にすると暗くなるイメージがある	・天窓など自然光を取り込む構造
大人数での多様な活動にも活用できる体育館等の大きな空間 	・学年関係なしの活動や授業にも期待		・防災拠点の機能 ・部活など年中快適に活動できる場所(空調設備の整った空間)
地域の人たちとも一緒に学びや活動ができる拠点のような空間 	・地域コミュニティの活性化が期待できる ・地域の子どもは地域で育てるという意識醸成	・セキュリティ面で不安	・外部の講師による地元ならではの体験学習 ・子育て世代、高齢者、生徒の多世代交流
図書館など他の公共施設と一緒に多様な学びを集めた空間 	・公共施設としての共有化は良いと思う	・セキュリティ面で不安 ・他の公共施設を気兼ねなく使えるか	・北体育館と連携して中学生が優先利用できる環境であるとよい

第2回 みんなで考える『新しい中学校』(12/19 開催)

<参加者 保護者11名(森田地区8名、河合地区3名)>
・1回目の結果を踏まえ、「学び」「生活」「共創」の3つのコンセプトで考えられる、新しい中学校における具体的な整備イメージについて意見交換を行った。

コンセプト	具体的なアイデア	
「学 び」 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、 柔軟で創造的な学習空間を実現	<学習環境> 自習室のような個別に集中して取り組める空間 パーティションで柔軟に生徒数や合同授業等に対応できる空間 十分な教室スペースの確保	<学習方法> デジタル化を活用し、得意分野を伸ばす等、生徒ごとにカスタマイズできる授業 県内外を含めた他校と連携した合同授業 プレゼンテーションの機会確保
	生徒が自発的に学習意欲を持てるような学習空間を	
「生 活」 新しい生活様式を踏まえ 健やかな学習・生活空間を実現	<様々な生徒同士の交流> 全天候型の中庭等の全生徒が交流できる空間、柔軟なクラス編成 (森田：生徒のグループが固定的 河合：生徒数が圧倒的に少ない)	
	<職員室> 生徒と教師が話しやすく、過ごしやすい空間(入口の壁を撤去、カフェのような空間)	<ジェンダーフリー・バリアフリー> 多目的トイレや更衣室等の設置、保健室でのプライバシーガード
「共 創」 地域社会と連携・協働し ともに想像する共創空間を実現	各々の利用者・目的に適した居場所づくりを	
	PTA も一つのコミュニティとして積極的に学校に関わり、役員等の担い手も育成 地区の年間行事で協働できるものを選択し、積極的に中学生が参加	住民で技術・資格を持つ人たちで人材バンクを創設し、地区の魅力を学ぶ出張出前授業 生徒と地区が各々の活動(授業)に提案し、ともに学びあえる環境を
	「森田と河合」「保護者と地域と生徒」を繋ぐ公民館ような空間を	

福井市北部地域学校規模適正化基本計画【概要版】

1 基本計画の概要

学校規模適正化検討委員会の答申を踏まえ、北部地域に位置する「森田小学校区・河合小学校区・中藤小学校区・明新小学校区」を対象とし、人口や土地利用に関する中長期的展望、学校施設の現状など幅広い視点から検討し、森田小学校及び森田中学校の規模適正化に係る適正方策を取りまとめる。

2 学校規模適正化委員会の答申内容（R2.5）

1 小学校の適正規模の考え方

多様な仲間と学び合い、高め合うには、各学年2～3学級が標準規模。
学年ごとに1学級を維持できる規模、各学年3～5学級も許容範囲。
・各学年6学級以上、全児童数が1,000人を超えることが予想される場合、施設活用等で支障をきたし、子どもたちが伸び伸びと学び生活することが困難になるため望ましくない。

2 中学校の適正規模の考え方

多様な人間関係の中での学び合いのために、各学年複数の学級編成が望ましい。
1学年1学級であっても20人程度であれば、きめ細やかな少人数教育が展開できるので許容範囲。

答申内容

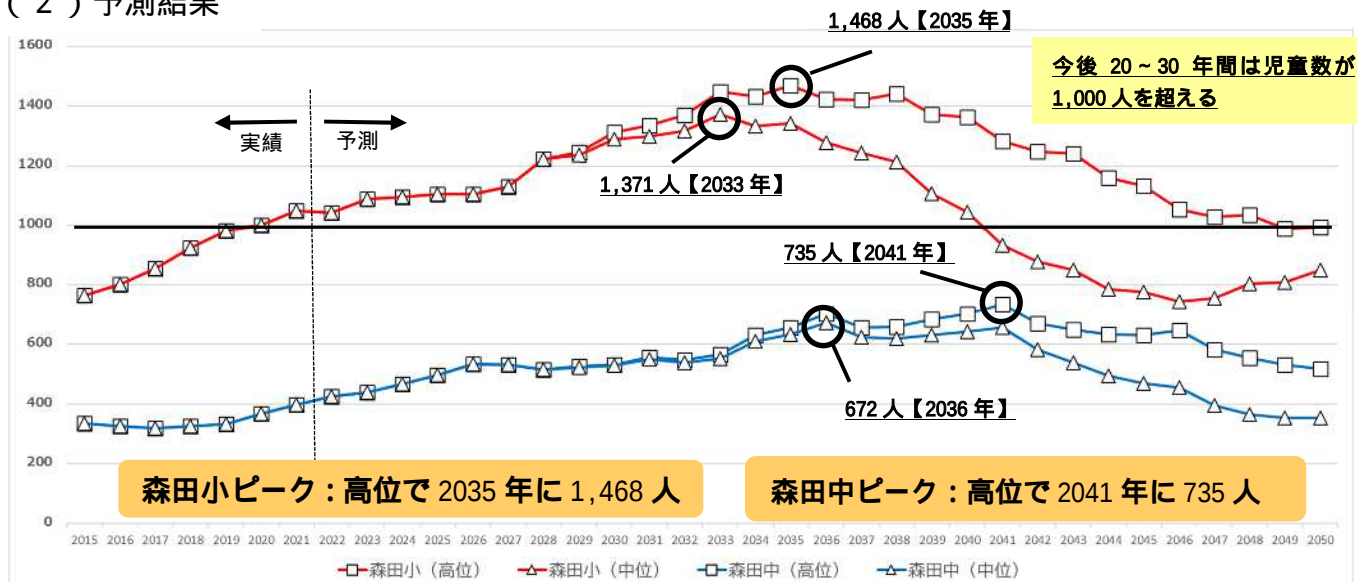
- ・森田小学校については、速やかに2校への分割を進めることが必要。
- ・分割に際しては校区を見直し、通学時間や安全面について十分配慮すること。

3 森田地区における児童・生徒数の現状と予測

（1）現状

- 小学校：令和2年に1,000人を超え、今後も増加が見込まれる。（令和3年度：1,049人）
 - 中学校：将来的には既存校舎だけでは教室確保が難しい。（令和3年度：398人）
- 今後も福井森田道路周辺の農地を中心に宅地化されていくことが想定される。

（2）予測結果



4 各学校における具体的方策の検討

（1）森田小学校で想定される具体的方策

具体的方策	実現の可否	方向性
既存の敷地内での増築、改築	可能性低い（児童数が1,000人を超えているため）	×
校区（学区）の変更	可能性低い （河合小の受入に限界、地元の下承を得ることが困難）	×
小学校の新設	可能性あり （適当な建設地の確保が条件） 区画整理区域内に適地はなく、区域外西部（JR北陸本線西側）だと地理的なバランスを確保することが厳しい。	
現森田中を小学校へ改修	可能性あり （中学校の移転新築が条件）	○

（2）森田中学校で想定される具体的方策

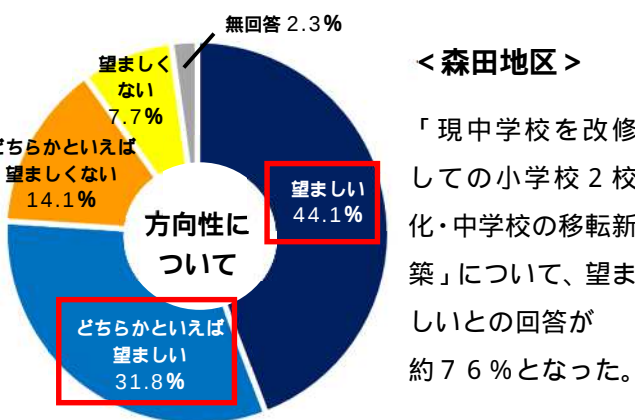
具体的方策	実現の可否	方向性
既存の敷地内での増築、改築	可能性あり （グラウンドが狭小になる可能性がある）	
校区（学区）の変更	可能性低い （灯明寺中の受入に限界、地元の下承を得ることが困難）	×
移転新築	可能性あり （適当な建設地の確保が条件） 区画整理区域内に適地はなく、区域外西部（JR北陸本線西側）の可能性が高い。 →通学路の安全確保等の観点から河合地区の中学校区を灯明寺中から新しい中学校に変更することも可能。	○

具体的方策の方向性は、
森田小学校「現森田中を小学校へ改修」、森田中学校「移転新築」とする。

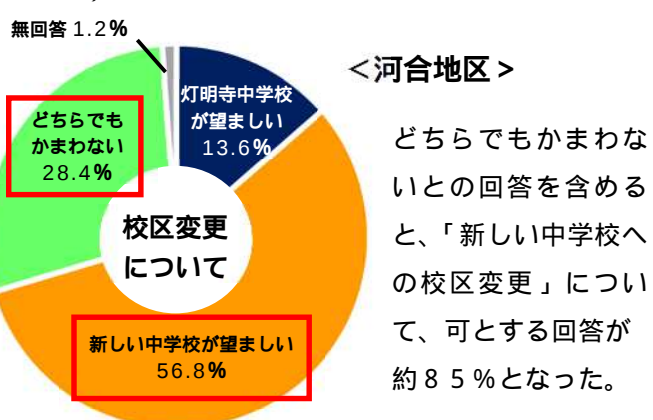
5 住民アンケートの結果（具体的方策について）

配布総数：2,000件
回収数：998件 回収率：49.9%

森田地区）配布数：1,707件 回収数：836件 回収率：49.0%



河合地区）配布数：293件 回収数：162件 回収率：55.3%



具体的方策の方向性について、「望ましい・可とする」回答割合が高かった。

6 小学校の整備方針：『現森田中学校を改修しての2校化』

(1) 施設整備の方向性

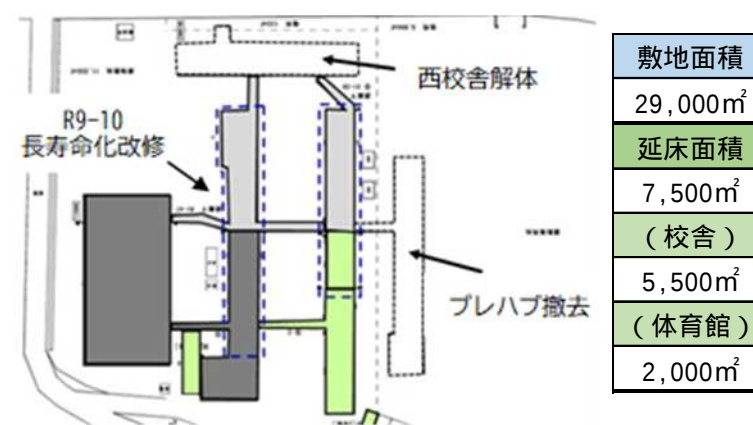
- ・現森田小学校及び現森田中学校とも**最大800人の児童を収容できる規模**となるよう整備する。
- ・現森田中学校は、将来的な児童数増加を見据え、**段階的に増築**する。
- ・特別教室を含めた教室数は両校とも**概ね同数となるよう整備**する。

校区の分割について

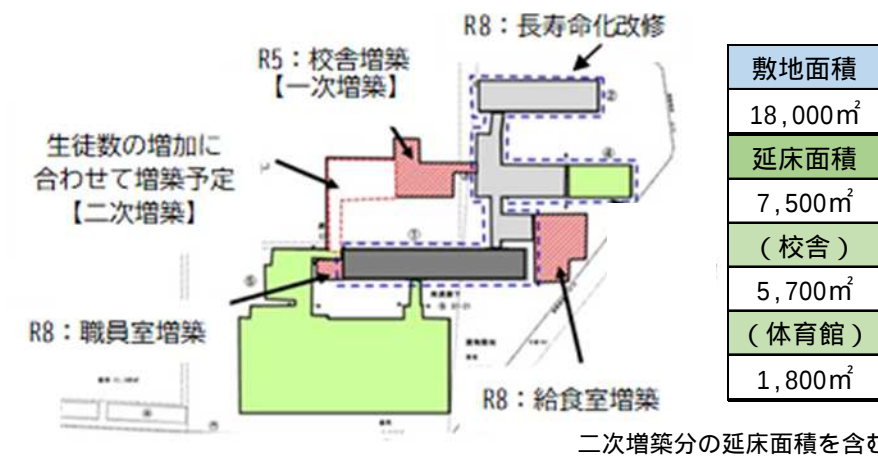
学びに適した学校規模（両校の児童バランス、児童数最大800人前後）
地域コミュニティを考慮し、自治会区域は極力分割しない
通学路の安全性の確保
上記3点を考慮し、次年度以降の通学区域審議会で検討していく。

(2) 整備イメージ

<現森田小学校>



<現森田中学校>

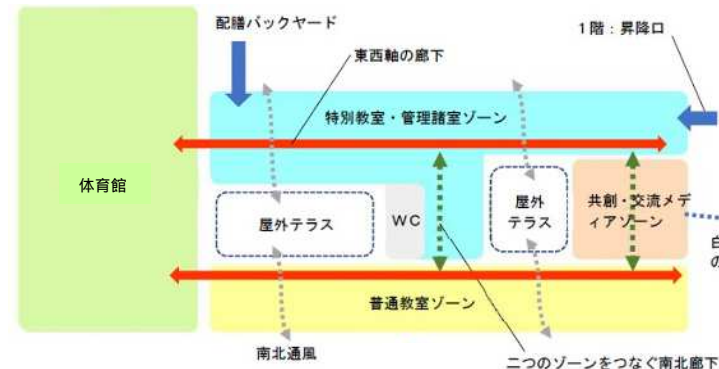


7 中学校の整備方針：『区画整理区域外西部への移転新築』

(1) 施設整備の方向性

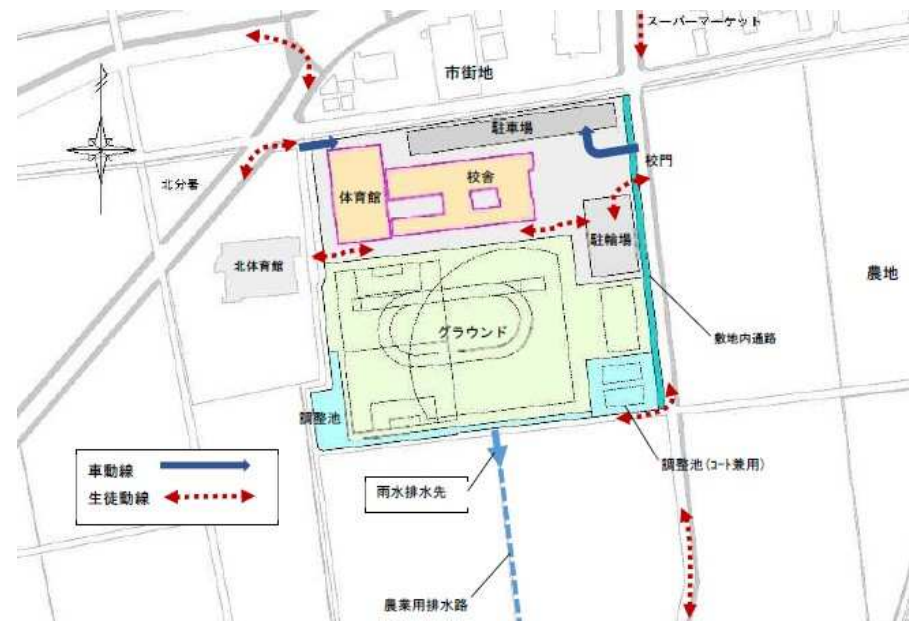
- ・**森田地区と河合地区を校区**とした新しい中学校を整備する。
- ・当初は700人程度を収容できる規模で整備し、将来的な生徒数増加を見据え、**段階的に増築**する。

(2) 校舎内配置イメージと平面図イメージ



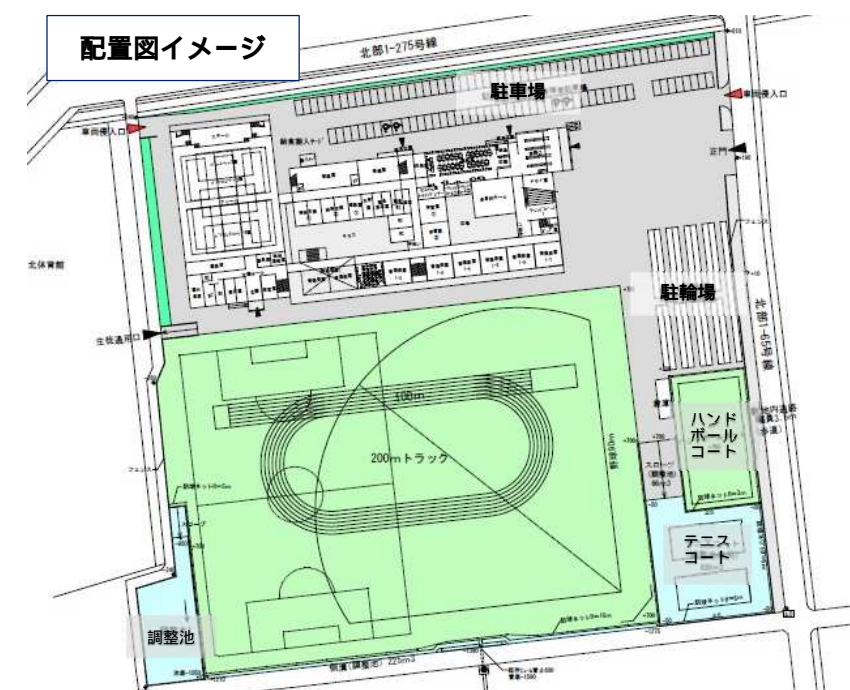
- ・子どもたちの滞在時間が最も長い普通教室の生活環境、駐車場と給食配膳の動線、施設管理等を考慮した配置とする。
- ・屋外テラスを介した風通し、回遊性を持たせたコンパクトな動線も考慮。

(3) 敷地内配置イメージと配置図イメージ

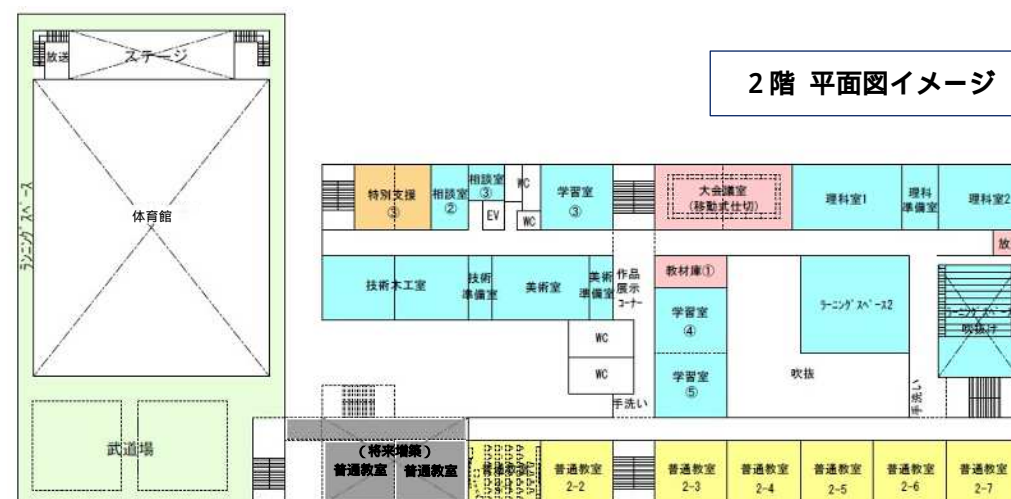
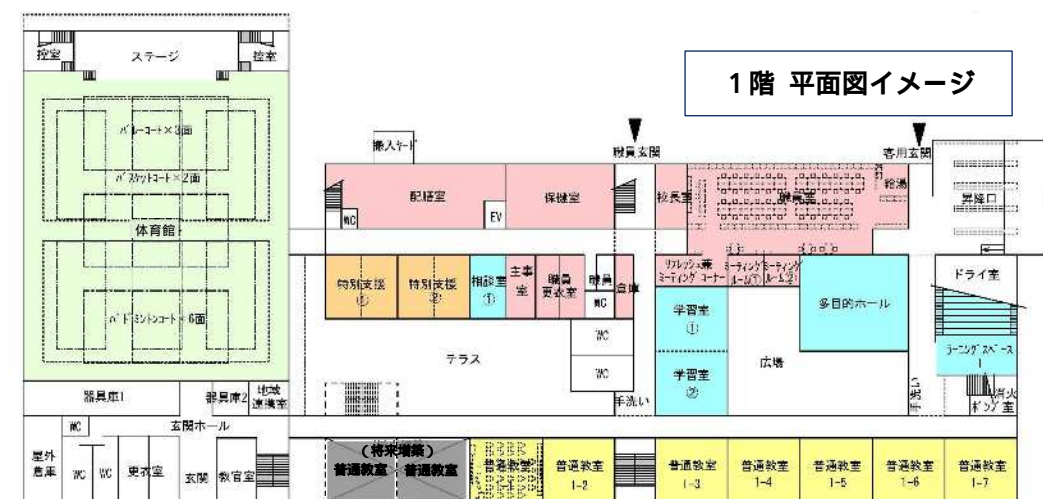


- ・市街地との連続性、農地に囲まれている状況、排水経路を考慮した配置とする。
- ・生徒の主要動線である東側には、安全性を考慮し、敷地内通路を設ける。

配置図イメージ



敷地面積	延床面積	(校舎)	(体育館)
37,500㎡	11,300㎡	8,500㎡	2,800㎡



8 整備手法等の検討

(1) 木材活用について

国の木材活用の方針

公共建築物においては、コスト・技術面で困難な場合を除き、積極的に木造化を促進する。

新中学校整備に必要となる木材量

令和4年10月頃までに木材量が決まれば必要量の確保は可能。

木材活用に関するリスク

- ・木造校舎の設計、材料の加工等で、建築に向けたスケジュールや事業費に影響が出る可能性がある。

国の方針も踏まえながら、**可能な限り木材を活用できるよう基本設計の中で検討する。**



(2) ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）について

- ・新中学校について、ゼロカーボン社会の実現に向け、太陽光発電や高効率空調などの省エネルギー化を図り、**ZEB化を検討する。**

(3) バリアフリー・ジェンダーフリーへの対応について

- ・学校施設の出入り口等におけるスロープや、多目的トイレの設置など、誰もが利用しやすい空間となるよう配慮した整備を行う。

学校施設の整備において、子どもたちへの教育にもつながるよう**積極的にSDGs推進に取り組む。**

9 適正化の全体イメージとスケジュール



	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
新中学校	計画策定	基本設計・実施設計		新築工事		開校（R8.4.1～）		
	用地交渉	用地造成						
現森田中		設計	増築		設計	増築・転用改修	小学校の2校化（R9.4.1～）	
現森田小							大規模改修	

10 これからの学校施設のあり方

国の考え

「令和の日本型学校教育」の姿【R3.1月】

学校のICT環境が整備され、1人1台端末環境のもと、全ての子どもたちの可能性を引き出す、**個別最適な学びと協働的な学び**の一体的な充実

新しい時代の学びへの対応の必要性

- ポストコロナ時代における学校施設という実空間の役割
- 学びのスタイルの変容への対応

『新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）』【中間報告：R3.9月】

～「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体で学びの場として想像する～

新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方（5つの姿の方向性）

- | | |
|------------|---|
| 学 び | 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現 |
| 生 活 | 新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現 |
| 共 創 | 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現 |
| 安 全 | 子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現 |
| 環 境 | 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現 |



市の考え

学校教育方針（R4～R8年度）「学びをつなぐ・未来につなげる」

子どもの学びを様々な「人・もの・こと」とつなぐことで学校教育を充実させ、子どもたちの未来につながる生きる力を育む

市内学校における先進事例（中藤小・本郷小・明道中・至民中・安居中など）

- 教室を少人数学習や廊下との一体的使用など多目的な用途に柔軟に活用できる工夫
- 校舎内の教室や廊下などに木材を活用した温かみのある空間づくり

など

<本計画における学校づくりの方針（案）>

- | | |
|------------|---|
| 学 び | <p>▶▶▶ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、学校施設全体として多様な学びを可能とするような空間づくりをめざす。</p> <p>○普通教室は、ICTやグループ学習など学習規模・形態に応じた多様な学びを実現する空間づくりをめざす。</p> <p>○学校全体として、学びの動機づけとなるような空間や多様な学習形態に対応できる空間づくりをめざす。</p> |
| 生 活 | <p>▶▶▶ 新しい生活様式を踏まえ、学校施設全体として機能的で居心地の良い安心できる空間づくりをめざす。</p> <p>○普通教室は、収納空間の配置の工夫など、子どもたちが生活を送る上でゆとりある空間づくりをめざす。</p> <p>○職員室は、執務エリアと区分した上で、カウンターや相談コーナーなど開放的な空間づくりをめざす。</p> |
| 共 創 | <p>▶▶▶ 地区の歴史や文化などの魅力を活かし、地域と連携・協働しながら、ともに創造的な活動が展開できるような空間づくりや取り組みの推進をめざす。</p> <p>○地区の資源を活用し、学校・家庭・地域が連携、協働しながら教育活動に取り組める空間づくりをめざす。</p> |
| 安 全 | <p>▶▶▶ 子どもたちの安全・安心を確保するとともに、防災拠点や、誰もが利用できるようバリアフリーやジェンダーフリーなどにも配慮した空間づくりをめざす。</p> |
| 環 境 | <p>▶▶▶ 脱炭素社会の実現に向けたZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）や木材活用の推進など、環境に配慮した空間づくりをめざす。</p> |

内は、新中学校における学校づくりの方針の抜粋